

あしただ

令和8年8月12日発行
現在会員数 258名
男性 139名
女性 119名
(R8. 7. 31現在)

題字：雨宮博雄

編集・発行 公益社団法人八丈町シルバー人材センター

〒100-1401 東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2

TEL. 04996-2-4666 FAX. 04996-2-5355

E-mail hachijo@sjc.ne.jp

URL. <https://www.sjc.ne.jp/hachijo/>

《就任挨拶》

外部監事（八丈町税務課長） 山下 進



このたび、6月の総会でご承認をいただき、八丈町シルバー人材センターの監事を務めることとなりました山下 進です。普段は町役場の税務課に勤務しておりますが、今回は町職員としてではなく、これまでの仕事を通じて培ってきた税務や行政の知識を生かす住民の立場として、外部監事を拝命することになりました。

就任後、新任監事を対象とした研修にも参加し、監事に求められる役割や責任、監査の視点などについて学びました。研修を通じて、監査は単に形式的な確認を行うだけではなく、センターの健全な運営を支える重要な機能があることを実感したところです。数字だけを見るのではなく、その背景や運営全体にも目を向けることが大切であることを学び、監事とは、組織をより良くするための「チェック役」であると同時に、「サポート役」でもあることを認識する大変有意義な研修となりました。

さらに、民間企業の会計と公益的な役割を持つ団体の会計の違いや、公益法人の会計ルールが見直された背景などについても学びました。企業では利益をどれだけ生み出したかが重要になりますが、公益的な団体では、地域や社会のためにどのような活動を行ったか、その活動を継続していくための財務基盤があるかという視点が重視されます。シルバー人材センターならではの使命を踏まえた会計の考え方があることを知る良い機会となりました。

八丈町は全国的にも高齢化が進んでいる地域です。そのような地域で、会員の皆さんが長年の経験を生かし、健康で生きがいを持って活動できるシルバー人材センターは、町に欠かせない大切な存在です。私自身、会員の皆さんがさまざまな現場で活躍されている姿をよく拝見しており、地域の暮らしを支える丁寧な仕事とその積み重ねが、町民の皆さんからの信頼につながっているものと実感しています。そして、会員の皆さんが安心して活動できる環境を整え、地域から信頼される組織であり続けるためには、日々の事業運営や会計処理が適正に行われていることが欠かせません。その一端を担う監事としての責任の重さをあらためて感じているところです。

八丈町では、お互いに顔見知りという関係も多いなかで、「監査」と聞くと少し堅苦しい印象を持たれるかもしれません。しかし、監事の仕事は誰かの間違いを探すことではなく、センターがこれからも安心して活動が続けられるよう支えることだと考えています。その役割を果たすためにも、先入観を持たず、公平で誠実な姿勢を大切にしながら監事としての務めを果たしていきたいと思っております。

まだ就任したばかりで、これから学ぶべきことは多くありますが、会員の皆さんや役員・職員の皆さんとコミュニケーションを取りながら、信頼されるシルバー人材センターの体制づくりに少しでも貢献できればと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

《思い出》

理事 田代 保彦



理事を引き受けることになりました、田代保彦です。
よろしくお願いいたします。

忘れられない思い出を、一つ、二つ述べたいと思います。

小学生のころ、人がやっと通れる細道を歩き、学校近くにとんぶ（山）がありそこを駆け上り、滑り降り汚れた手足を、洗い（現在の体育館の傍らに大きいタンクがあった）教室に駆け込んだ。下校時は、よその庭を近道にして帰る日々でした。

ある日1人で下校してる時、いつものように近道を歩いていたら、親戚の叔母さん家の角から、柿の木の枝先に赤く実った柿が、目に飛び込み思わず手を伸ばしてもぎ取り、服でほこりを払い、ほおばったとたん口がひん曲がるほどの渋さで、ウェー…と吐出し、急いで家に帰りうがいをしたが、夕食まで苦さが残った。

悪いことは、できないと思った。

大みそかの日、母から貰った洋服を枕元に、きちんとたたみ眠り、元旦、遅い朝食をとり、お屠蘇を片手に（口に当てるだけ）新年のあいさつ、食事を終え近くの空き地に凧揚げをしに行き、帰ると近くの人が家の前で羽根つきをしていた。

近所の上司の家に挨拶をしに行った人達が、酔っぱらいながら羽根を落とすとスミをつけられるのを承知で仲間に入り、羽根をポトリと落とすとスミを塗られるのを嫌がり逃げ回る大人の、しんべた（お尻）に羽子板でぴしゃりとひっぱたく、イテテテとしんべたをさすりながら、家路に急ぐ姿が、可笑しかった。

今は各家庭に車がある時代ですが、昔は、バス・自転車が日常でした。

トラックは、L型の鉄の棒を用いて車の前のほうに入れて、クルクル回してエンジンを掛ける（手動型）……

家の前から、三原山（八幡の上）を眺めると、お尻のような形が目に映る。誰がつけたか知りませんが、自然としんべた山と呼んでます。

半世紀（50年～60年）前の遠い遠い昔の話（ひとり言）でした。

理事会開催報告 7月22日（水）午前10時から、八丈町役場大会議室において「第3会理事會」が開催されました。主な議題は次の通りです。

1 承認事項

1) 会員の入退会について

入会7名退会2名について承認

2) 広報委員会委員の選任について

田代理事の選任を承認

2 報告事項

1) 令和8年5・6月の事業実績について

5月は順調だったが、6月は台風により実績が落ち込んだことを報告

2) 広報委員会について

5月21日開催の第1回広報委員会について報告

3 その他

1) 年間行事予定について

10月の役員研修の日程決定、3月の理事会の日程変更

2) 会報掲載の原稿依頼について

会員記事の執筆者を募るが、該当者なしで事務局に一任

3) 備品（耕運機）の処分について

財務状況の良化を図るため換価を目指していくことを承認



本土空襲と八丈島の航空通信隊

横浜市北部、東名高速道路横浜町田インターチェンジに近い緑区長津田町に東京科学大学横浜キャンパスがあります。同大学は2024年10月、「科学の進歩」と「人々の幸せ」の実現を目指して東京工業大学と東京医科歯科大学が統合してできた新しい国立大学で、研究・教育の成果が期待されています。その科学の先端をゆく大学の近くに、八丈島と深いつながりのあった軍事施設跡が文化財として保存されています。

1941年(昭和16)2月、東京―福岡間に無線電話回線の整備が計画されました。これはVHF-TVやFM放送、トランシーバーなどで使われている波長の短い短波を利用した多重通信技術を実用化するものでした。超短波は直進性がよく、電離層での反射がないなど本来長距離通信に適さない電波なので、遠くまで電波を届けるためには通信幹線をコントロールする端局を比較的標高が高く見通しのきく地点に狼煙台のようにつないでいかなければなりません。そこで、東京から一番近い端局として「長津田統制無線中継所」が現在の横浜市緑区長津田辻(東科大横浜キャンパス付近)の標高50m地点に設けられたのです。

1944年(昭和19)6月から8月にかけて、サイパン・グアム・テニアン^{かんらんく}の島々が次々と陥落すると、八丈島は本土防衛の最前線として、陸海軍あわせて1万数千人の兵隊が駐留し、島全体の要塞化が進められました。八丈島空港、底土^{かいてんこう}・回天壕、洞輪沢^{しんよう}・震洋壕^{なごり}など各地に残る戦跡はその名残ですが、三原山南麓^{ちゅうとん}に駐屯した通称三原隊「第32航空通信隊」沢田中尉以下400人の任務は、電波警戒送信機2基と同受信機5基を使って、本土空襲に向かうB29など米空軍の動きをとらえ、それを東部軍管区司令部に伝えることでした。

山田平右衛門さんの『八丈島の戦史』巻末「陣地配置図」には、三原山塊^{とうたいし}・東台子山の南麓に「航空情報三原隊」の表示が見えます。

三原隊はここで得た情報を「八丈回線」と呼ばれた超短波無線で、富士山(3776m)頂の「富士無線中継所」に送信、そこから「長津田統制無線中継

所」(横浜)を經由して東京・有楽町の東部軍管区司令部に送信していたのです。司令部ではそれを受けて「東部軍管区情報」として空襲警報を発令するしくみになっていました。

八丈島では、1945年(昭和20)1月から8月の終戦までに26回の空襲がありました。2月15日に三原隊の2人が死亡、4月30日には三根にあった海軍宿舎に投下された100kg爆弾で10数人の軍人軍属が死傷、7月3日には小島付近で釣りをしていた特警隊漁撈班の3人が死亡、4人が負傷するなどの被害がありました(『八丈島の戦史』)。

本土の都市では1944年(昭和19)11月から空襲が始まり、はじめはおもに軍需工場地帯がねらわれましたが、1945年3月9～10日に東京上空に飛来した150機のB29は、19万個もの焼夷弾^{しょういだん}を投下して下町一帯を焼き尽くしました。空襲による被害を受けた都市は全国で98。このうち72には重要な軍事施設がありませんでした。京浜地区の56%、名古屋地区52%、阪神地区で56%が消失し、焼失家屋は143万戸にのぼりました。政府の経済安定本部が1949年(昭和24)にまとめたところでは、空襲による死者は約20万人、負傷者27万人、行方不明者8000人であったといえます(小学館『日本の歴史』30)。

当時の最新技術で開設された超短波無線の「八丈回線」が空襲警報のもとになる情報を伝達していたということですが、それにしても戦争の代償の何と大きかったことでしょう。

伊藤 宏



昭和30年頃の長津田統制無線中継所

☆安全就業パトロールを実施しました☆

7月7日（火）に安全管理委員4名による安全就業パトロールをやすらぎの湯と植物公園で行いました。安全面に問題はなく、温泉施設は脱衣所が整頓されトイレも清潔だと評価されました。



《研修報告》

理事 浅沼 功

令和8年7月10日（金）東京しごとセンターにて、安全就業研修と安全リーダー研修に参加しました。

午前は第2ブロック主催の「高齢者の交通安全3つの視点」（自転車運転、歩行者、自動車運転）について鹿倉智裕警部補の講義を受けました。自転車と歩行者の事故が多いようです。

午後は「健康管理の徹底」について、坂東寛安全活動強化支援員の講義を受けました。

その後、「健康維持のための体力づくり」として、タオルなどを使ってスポーツプログラマー山内道子先生の元気に働くために体力づくりの指導がありました。

最後に令和7年度の事故発生状況の報告もありました。

沢山内容がありましたので、今後の就業に活かしていきたいと思います。

7月末会員数	258名	就業実人員	148名	就業率	57%
--------	------	-------	------	-----	-----

会員入退会状況（7月分）

入会者 よろしくお願ひします

男性4名 女性3名

退会者 お疲れさまでした

男性1名 女性1名

八丈町 SC 安全就業標語

町健診 現状維持の バロメーター

一つの輪 目くばり気くばり 思いやり

＊就業相談のお知らせ＊（要予約）

日 時 9月15日（火） 3時～5時

場 所 八丈町役場第2会議室

申 込 お電話ください ☎2-4666

上記の日時の場合は予約が必要ですが、何かありましたら随時事務局までご連絡ください。

事務局より 来月の配分金支払日は、9月15日（火）です。

システムの都合により11時以降の振込になります。

ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

《会員クラウドサービス利用研修について》

お知らせや配分金明細などをスマートフォンで確認できるクラウドサービスの利用研修を9月に実施します。

詳細は別紙のとおり、奮ってご参加ください。

